

第 2 回 北助松駅周辺の道路空間を考える座談会 議事録【概要版】

日 時	令和 2 年 10 月 29 日（木）午後 7 時から午後 8 時 30 分
場 所	北助松駅周辺地区まちづくり事務所
出 席 者	○近畿大学 : 柳原 崇男 委員（座長） ○泉大津警察署 : 細川 知行 委員 ○南海電気鉄道 : 中野 崇 委員 ○助松町自治会 : 南 正治 委員（欠席） ○助松ハイツ自治会 : 石附 恭子 委員（欠席） ○上条自治会 : 佐子 啓蔵 委員 ○東助松商店会 : 榎本 稔 委員 ○北助松商店街振興組合 : 浦野 純二 委員 ○清風南海学園 : 石井 博文 委員 名原 順 委員 ○高石高等学校 : 澤田 正 委員 ○小津中学校 : 小田 幹雄 委員 ○上條小学校 PTA : 梅谷 康洋 委員 ○かみじょう認定こども園 PTA : 古路 智之 委員 ○かみじょう認定こども園保護者会 : 西里 理紗 委員 ○泉大津市 : 山野 真範 委員
事 務 局	○泉大津市都市づくり政策課：八木、中村、二俣 ○中央復建コンサルタンツ㈱：山室、富久、山根
会 議 次 第	1 開会 2 座談会 ・前回の振り返り ・北助松駅周辺の“まち”と“道路空間”について 3 連絡事項
会 議 資 料	1 次第 2 メンバー表・配席図 3 北助松駅周辺の“まち”と“道路空間”について意見シート

【1 開会】

【2 座談会（要約）】

- ・事務局による『前回の振り返りについて』の説明
- ・事務局による『北助松駅周辺の“まち”と”道路空間“について』の説明

（意見交換）

- ・柳原座長による意見交換の趣旨説明

「今回は、北助松駅周辺の特徴を踏まえて、前回からもう少し広い視点で、北助松駅周辺の『良いと思うところ』、『改善すべきと思うところ』について意見交換を願う。」

- ・商店街のイベントとして、『商連わいわいフェスタ』には、昨年は約2千人の来訪があり舞台では手品や小津中学校吹奏楽部の音楽演奏などが催された。北助松商店街を歩行者天国とし、自動車交通は南北の道路に廻すなどして対応している。地域住民が参加していることは良い点である。FM 泉大津にもアナウンス等でご協力してもらうなど、情報発信にも努めている。地域を盛り上げる趣旨で行っている。
- ・出店は30店舗程度で、半分が飲食で主に商店街からの出店、半分がワークショップで主に外部からの出店である。吹奏楽の演奏については、地域の学校へ順番に声をかけている。
- ・商店街としてはきれいであることが重要であると考えており、東助松商店街が一番きれいであると自負している。現在、店舗には99%入店している。また、地域ボランティアによる協力で清掃活動を行っており、年間約600人の参加がある。
- ・清風南海という府内有数の進学校があることは良いことである。前回の会議後に他の保護者にも意見を伺ったところ、北助松駅の駅前については、あまり危険を感じたことがないということだったが、それは、清風南海の先生方の誘導があるからだと思う。一方、改善するのであれば上条校下り交差点から踏切の安全性向上だという意見が多かった。
- ・保護者の立場としては、子供たちを育てたいまち・生徒が集まってくるまちになってほしいという思いがある。小津中学校では、地域で子供たちを育てるというコミュニティスクールの取組みを始めている。
- ・駅周辺がきれいで安全であることが一番だと感じており、上条校下りの周辺の安全性については、人が集まってしやすいまちとして地域を発展させるという考え方からも、対策を望む。
- ・小学校付近には歩車分離の交差点が3つあるが、その意味を理解していない子供もいるので、子供たちが安全についてもっと勉強する機会があってもよいと思う。子供たちが小さい頃から安全に対する意識を根付かせることは、地域のためになると思う。
- ・東助松商店街はブルーのイルミネーションがあって歩道がきれいで、イベントも結構開催されていると思うが、イベントや取組みについては、もっと情報発信をすれば、より活気が出てくるのではないかと思う。北助松駅周辺は、住みやすいし、子供、学生、高齢者がいて、まちとして活気があると思う。
- ・意外に自転車の事故が多いのが気になった。歩車分離の交差点での飛び出しなどが危ないと感じるので、何らかに対応していく必要があるのではないか。子供だけではなく、大

人にもマナー改善も必要だと感じる。

- ・北助松駅周辺に学校が集まっており通学に便利なまちだと思うが、道路事情が良くない箇所があり、自治会が見守り隊として、朝・夕に街角に立って子供たちを誘導している。
- ・現在、東助松町・森町・千原町そして高石エリアの4つの地域が北助松商店街を通行して駅を利用しているが、道路幅が非常に狭いので、歩きやすい環境をつくるのが大事である。自動車に関しては、一旦停止のところでは停車するが、横断歩道ではほとんど一旦停止しないので、この点は非常に気になる。
- ・安全に生徒を通学させるために、府警OBを採用するなどの対応をしているが、駅ホームが込み合って困るという苦情を受けたりする。生徒には高石駅を利用してもらうこともあるのだが、登下校は、生徒たちの貴重なコミュニケーションの時間でもあるので、指定はできない。自転車については、高石警察署に来てもらい、中学1年生を対象に交通安全教育を実施しており、その中で、交通マナーも教えていただいている。
- ・北助松駅の和歌山方面は改札前の空間が狭く、どうしても生徒が溜まってしまい、雨天時には特にひどくなる。改札を出たところにもう少し広いスペースがあればよいと思う。事故に関しては、自動車同士の事故はあまりないがヒヤリとすることも多く、また、マナーに関しては、一部の大人に非常にマナーが悪いところが見られ、例えば、踏切において、警笛が鳴っていて横断する人や遮断機が下りていても横断する人もいて、いつ大事故につながるかわからない。
- ・清風南海の先生方の対応はあくまで対処療法であり、根本的な解決ということではない。北助松駅周辺まちづくり会議の経緯を横に置いて、まちをきれいにするという話ではないので、そうした点を踏まえて、何をやるべきかを考えてもらいたい。
- ・北助松駅前乗降客数が多いということを考えると、改札口付近の空間が狭い。まちのにぎわいという点に関しては、まちの核になるものがなく魅力に乏しいと感じるので、駅舎の改修などによって魅力的な駅にすることも一つの策になるのではないかな。また、電車の停車位置をもう少し南側にずらせば、駅構内で滞留するスペースができるのではないかな。
- ・上条校下り交差点周辺の安全性を考えていく必要があると思う。交差点には毎日交通指導員が4名立っているが、6mという狭い道路空間の中に小学校、中学校の生徒たちが通行している状況である。一方、北助松駅周辺は魅力向上というのが課題と思われるが、校区としてコミュニティスクールの取組みをしており、校区全体で目指すこども像を1中学校2小学校で一緒に考えているので、地域で子供たちを育てているという観点で例えば、助松神社を拠点として魅力と憩いのある地域にしてはどうか。
- ・にぎわいと魅力のある駅というご意見をいただいたが、他市において沿線活性化の取組みとして、駅の壁に絵をかいてもらったこともあり、ホームの外壁塗装などは可能性があるかもしれない。駅改札付近での通学生徒の混雑に関しては、駅近くに学校があるケースは南海沿線の他の駅にもあり、先生がホームの中に入り指導をしてもらっているところもある。
- ・府下の交通事故件数自体は、泉大津市を含めて減少しているが、自転車に関しては、泉大津市は地形が平坦なので利用者が多く、利用者が多い分、他市に比べて事故が多いかもしれない。自転車のマナーなどは、小学校では安全教育しているが、大人へのマナーについても啓発する機会を考えていかないといけないと思う。

- ・北助松駅前と上条校下り側の踏切は一番の課題かと思うので、その解決策の検討をしていきたい。商店街の発展の取組みも地域でやっていければよい。コミュニティスクールや交通安全教室など、地域と学校が一体となって子供を育てていることは、この地域の良さであり、そのなかで、交通安全の問題を解決していくことが必要である。
- ・できることから対策を図っていくことが大事かと思う。

【3 連絡事項】

- ・本日のご意見とシートへご記入いただいた内容は今後の検討に役立てていきたい。
- ・次回開催については、調整のうえ、改めて連絡させていただく。

(以上)